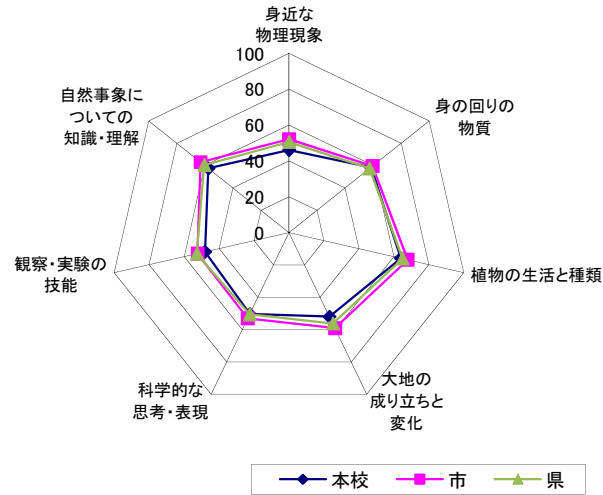


宇都宮市立田原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	46.0	52.1	50.5
	身の回りの物質	58.3	59.6	57.4
	植物の生活と種類	64.0	67.8	64.9
	大地の成り立ちと変化	52.0	59.1	56.3
観点	科学的な思考・表現	50.4	53.1	50.6
	観察・実験の技能	48.1	52.4	52.7
	自然事象についての知識・理解	57.6	63.1	60.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	県と比べて本校の正答率は46.0%であり、4.5ポイント下回っている。 ○「光や音」の知識・理解の問題は比較的正答率が高い。 ●思考を要する実像の問題や、実験結果から読み取って計算する問題では正答率が低い。	「光や音」では思考的な問題に、「力と圧力」では計算問題に重点を置いて指導していきたい。
身の回りの物質	県と比べて本校の正答率は58.3%であり、0.9ポイント上回っている。 ○「状態変化」や「水溶液」の粒子モデルに関わる問題の正答率が比較的高い。 ●ガスバーナーの使い方や、水溶液の質量パーセント濃度を求め方の理解が不十分である。	ガスバーナーを使う実験では、特定の生徒のみが操作してしまうのではなく、多くの生徒が操作に関われるように指導していきたい。 水溶液の質量パーセント濃度を求める演習問題を繰り返し行い、質量パーセント濃度の求め方の定着を図りたい。
植物の生活と種類	県と比べて本校の正答率は64.0%であり、0.9ポイント下回っている。 ○「植物のつくり」については概ね定着できている。 ●顕微鏡の使い方と「植物のなかま」の知識・理解が不十分である。	顕微鏡を使った観察の時間を多く確保したい。 「植物のなかま」では分類基準の確認に重点を置いて指導していきたい。
大地の成り立ちと変化	県と比べて、本校の正答率は52.0%であり、4.3ポイント下回っている。 ○「地震の重なりと過去のようす」の問題では比較的正答率が高い。 ●ボーリング調査で得られた試料を基にした柱状図から、地下の様子を推理する力の定着が不十分である。	「火山と地震」では火成岩全体の組織と地震波に重点を置いて指導していきたい。